

文化遺産保存の助言者に

県建築士会が育成講習、暁堂寺を調査

県建築士会は本年度から、地域に眠る歴史文化遺産を発掘し、その保存と活用を助言するための人材「ヘリテージマネージャー」の育成講習会を実施している。本年度第一期生の1グループは講習の一環で、関市肥田瀬の暁堂寺を調査した。その報告会を16日、同寺で地元住民向けに開いた。

(佐名妙予)

関市



暁堂寺は平安時代後期の創建とされ、両面宿儺が彫ったとされる秘仏の聖観世音菩薩立像(市重要文化財)を安置する。昨年9月、台風14号の影響で屋根に倒木があり、被害を受けた。これをきっかけに今回の調査につながった。

調査したのは建築士や設計士ら8人で、昨年11月から今年3月まで計3回実施。本堂の建造物の寸法計測や腐朽部分を確認して図面に起こして記録。地元住民らへの聞き取りも行った。また、今後、文化財登録につながる場合に必要となる一定の形式の書類もまとめた。

報告会は講習会の受講者らが行い、寺の縁起や建物の木鼻の彫刻、角釘(和釘)

寸法調査などを実施した寺の本堂。昨年の台風被害で屋根に倒木があり、大きな被害を受けた。関市肥田瀬、暁堂寺

本堂の計測や腐朽、住民に報告

を使用している点から建設年代が江戸中期と推察されることが示された。また、柱の半数に虫食い被害があることや、屋根の倒木被害の詳細も説明された。本堂だけでなく、寺全体を取り巻く自然環境や住民らが寺を守ってきた歴史を含めて価値が高いことを評価した。また、2021年に亡くなった前住職の高橋定幹さんと地元の住民が作成した寺に関わる冊子があったことで調査が順調に進んだ経緯にも触れた。

現在暁堂寺の住職を務める高橋定佑さん(39)は「何度もう調査してもらい感謝したい。本堂だけでなく寺の環境全体を評価してもらえたこともうれしい」と話した。



地元住民らに調査結果を伝える講習会の受講者ら＝同